

10.13 史跡・文化財

10.13 史跡・文化財

造成地の存在に伴い、史跡・文化財への影響が考えられるため、埋蔵文化財の状況について予測、評価を行った。

10.13.1 調査

(1) 調査内容

調査項目は、埋蔵文化財包蔵地の範囲、現況等とした。

(2) 調査方法

既存資料調査及び聞き取り調査とした。

(3) 調査地域及び地点

計画区域内とした。

(4) 調査期間及び調査頻度

既存資料調査の調査期間及び調査頻度は、入手可能な最新年とした。

(5) 調査結果

日高市教育委員会による試掘調査（トレンチ調査）により確認された埋蔵文化財の位置は図10.13-1に、検出された遺構の概要は表10.13-1に示すとおりであり、道路跡や井戸跡、竪穴住居址等が確認されている。

表 10.13-1 検出された遺構の概要

調査年月日	検出種	検出数
令和元年 6 月 13 日～8 月 31 日	道路跡	1 条
	溝跡	1 箇所
令和 2 年 4 月 24 日～5 月 25 日	竪穴住居址	9 軒
	掘立柱建物跡	3 棟
	井戸跡	2 基
	道路跡	1 条

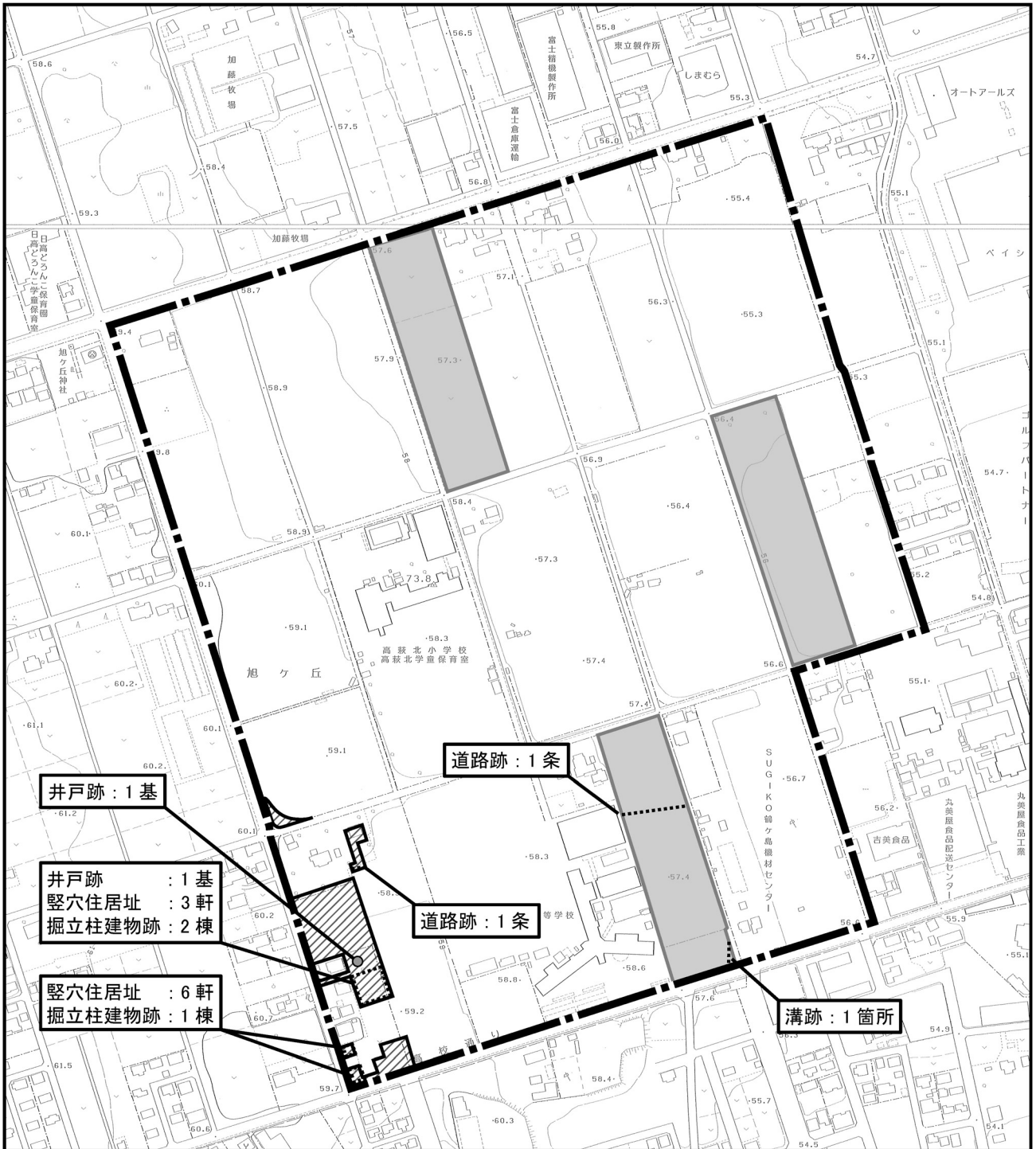
10.13.2 予測・評価

環境保全措置を明らかにすることにより予測・評価とした。

造成地の存在に伴う史跡・文化財への影響は、表 10.13-2 に示す環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲で回避が図られているものと評価する。

表 10.13-2 造成地の存在に対する環境保全措置

影響要因	影響	環境保全措置	措置の区分	実施主体
造成地の存在	埋蔵文化財の改変	地下部の改変を極力回避した造成計画とする。 県、市の教育委員会と連携しつつ、文化財の保護上必要な措置を講じる。	回避	事業者



凡 例

- 計画区域
- 令和元年試掘調査範囲
- 令和2年試掘調査範囲

図10.13-1 計画区域内の埋蔵文化財位置図

